

各 位

会社名	ベイビュー・アセット・マネジメント株式会社
代表者名	代表取締役社長兼CEO 八木 健
金融商品取引業者	登録番号 関東財務局長(金商)第397号
加入協会	一般社団法人 投資信託協会 一般社団法人 日本投資顧問業協会
問い合わせ先	管理部 岩田 浩明 03-5210-3342

「Fasanara/Bayview Receivables 債ファンド」新規設定に関するお知らせ

ベイビュー・アセット・マネジメント株式会社（代表取締役社長 兼 CEO：八木健 以下、「当社」）は、包括的な運用業務提携契約を締結する Fasanara Capital Limited（以下、「Fasanara 社」）のレシーバブル・ファイナンス戦略（以下、当運用戦略）に基づき運用を行う Fasanara Securitization S.A（ルクセンブルク籍 SPV）が発行する円建て債券（Fasanara 債）を投資対象とする私募投資信託「Fasanara/Bayview Receivables 債ファンド 2024-02（適格機関投資家私募）」（以下、「当ファンド」）を、2024年2月27日に新規設定致しましたのでご案内申し上げます。

当運用戦略は、世界中の 1,250 社から発掘した約 140 の優良オリジネーター(ファクタリング会社等)を通じ、リスク対比で金利水準が高い平均残存期間 60~90 日の売掛債権へ投資します。AI 等の先端テクノロジーを用いることで、数十万件の小口売掛債権をポートフォリオへ組入れることが可能となり、伝統的なプライベート・レンディングでは対応が困難な国、業種、オリジネーターの分散を実現、デフォルト率は年平均 1%程度と極めて低位に維持されてきました。また、銀行が敬遠する中小企業融資を担うことでグローバルな実体経済を支えており、類似戦略で運用される Fasanara 社の旗艦ファンドは、EU のサステナブルファイナンス開示規則（SFDR）において運用に際して環境・社会配慮の促進を盛り込む「8 条ファンド」にも認定され、欧州投資基金(EIF)、公的年金、保険会社等の大手機関投資家から支持を獲得しています。

Fasanara 債は、Fasanara 社及び当社が協働し日本の機関投資家向けのオルタナティブ・クレジット運用商品として、約 1 年をかけ開発されました。同アセットクラスでは珍しい優れた流動性を付与している他、数万~数十万に上る売掛債権を裏付け資産とする ABS の形態で設計することで、日本格付研究所(JCR)による信用格付けも取得しております。また、世界的に著名な運用コンサルタントが、類似戦略のオペレーショナル・デューデリジェンスを実施しています。

Fasanara 社は、2011 年に設立され、ロンドンを主な拠点として、様々なデジタル・レンディング領域を開拓、同分野のマーケット・リーダーとしての地位を確立してきました。200 名超の役職員の内、約 140 名が内部格付けを担当するデータ・サイエンティストやオリジネーターのシステムを自社システムへ統合する開発者等のエンジニアで構成され、フィンテックを駆使した運用を行っています。尚、当運用戦略以外に、コンシューマー・ローン、不動産ローン、スポーツ・レシーバブル戦略といったオルタナティブ・クレジット運用等を展開し、優れたパフォーマンスにより HFM 欧州ヘッジファンド大賞等数多くの実績を有しています。

当社は、株式、債券、マルチ・アセット、そしてプライベート・アセットのアクティブ運用に特化した日本の独立系ブティックハウスのパイオニア、そしてリーダーとして、創業来 26 年以上に亘り洗練された運用商品を提供して参りました。おかげさまで、年金基金を含む機関投資家から個人投資家に至るまで幅広い顧客層よりご信頼を頂き、約 7,998 億円*1 の契約資産を擁する国内最大級の独立系運用会社へと着実に成長を遂げることができました。今後も引き続き、高品質なクライアント・サービスを提供する独自のプラットフォームの上に、自社運用商品に加え、Fasanara 社を含む海外の秀逸な運用ブティックによる商品群を取り揃えることで、日本における本格的なマルチ・ブティック型運用会社を目指す所存でございます。

以上

*1 2023 年 9 月末現在の残高です。外貨建資産は 1 ドル=148 円で評価しています。また、当社の海外提携先が運用する国内公募投資信託の残高を含みます。

当ファンドに係る留意事項

投資リスク

当ファンドは、ルクセンブルク籍 SPV の発行する値動きがある有価証券等に投資しますので、ファンドの基準価額は変動します。

当ファンドの主要なリスクには、信用リスク・商取引に係るリスク・カントリーリスク・流動性リスク等がありますが、上記に限定されるものではありません。

従って、投資者の皆様は投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様へ帰属します。また、投資信託は預貯金と異なります。

ファンド費用

運用管理費用（信託報酬）：日々の信託財産の純資産総額に対して上限年率 0.9295%（税抜 0.845%）

費用の合計額は、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することが出来ません。

本資料は、プレスリリースの為に、運用会社であるベイビュー・アセット・マネジメント株式会社が作成したものであり、特定の取引や商品あるいは有価証券の勧誘ないし推奨を目的としたものではありません。本資料は目的の如何を問わず、その全部または一部を当社の許可なしに複製・複写・転記する事、及び第三者に開示することを禁じます。